

森のおくりもの7月



イチイ (イチイ科)



梅雨真っ只中ということもあり、森の中の木々もいっそう瑞々しさを増しており、力強さを感じます。しかし、春に新葉を展開し、花を咲かせ、種を実らせるなど、数か月のうちに慌ただしく活動してきた植物たちにとっては、蓄積された養分が最も枯渇している時期とされています。つまり、梅雨時期は多くの植物たちが体力回復するための大切な時期なのです。

そんなことを考えながら雨に濡れた森を眺めると、何となく植物たちが喜んでるように思えてきますね。

【写真・文 近藤晋也】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『“NO RAIN, NO RAINBOW.”』

（雨が降らなければ虹はできない）』

今年は梅雨の時期らしい、ぐずついた天気の日が続いています。冬に雪が少なかったせいか、森の中が乾燥しているように感じていましたが、今はしっかりと潤っています。

そんな梅雨空の合間に素敵な光景を見ることができました。鮮やかな色ではっきりとした2重の虹とコンパスで7色の大きな円を描いたような円形虹です。特に円形虹は初めて見たので、神々しさに感動して嬉しくなりました。

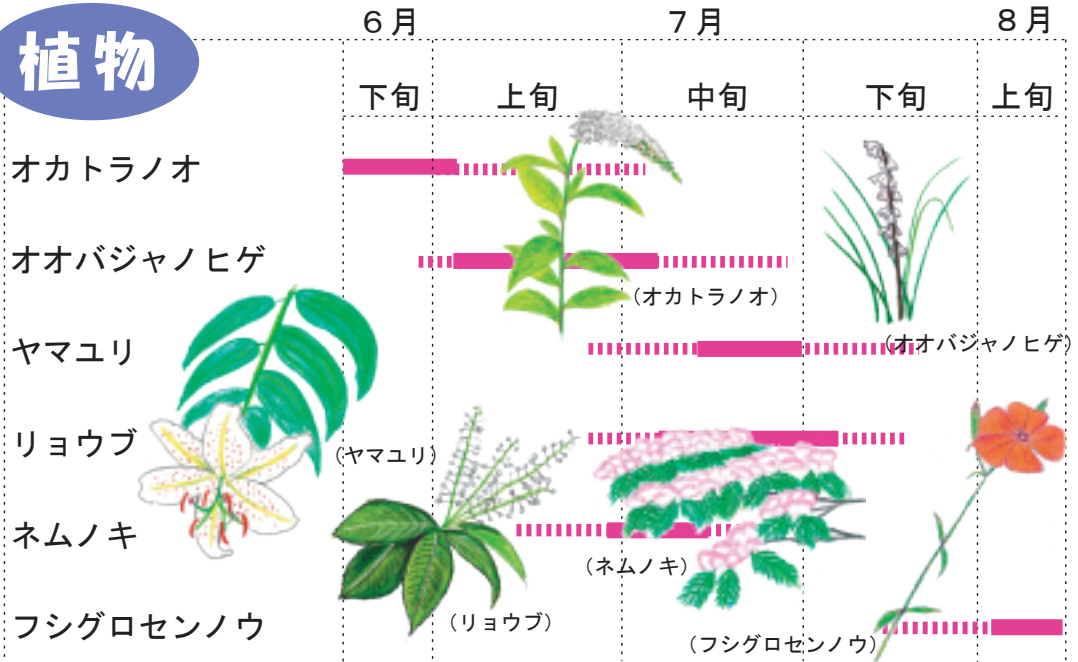


虹がシンボルになっているハワイに『“No Rain, No Rainbow.”（雨が降らなければ虹はできない）』ということわざがあるそうです。日本風にすると「雨の後には虹が出る」という感じでしょうか。「辛いことや悲しいことがあっても、それを乗り越えたらいいことがある」という意味です。また、チャールズ・チャップリンの映画で「下を向いていたら虹を見つけることはできないよ」という言葉があることを知りました。どちらも幸せを虹で表現しているのですね。私も虹を見つけると幸せな気持ちになります。

人は誰しも生きていれば辛いことや悲しいことに直面しますが、この言葉を知って「辛いことの後にはきっと幸せが待っているから、うつむかず生きて行こう！」と励まされたように思いました。 【レンジャー：新田隆一】

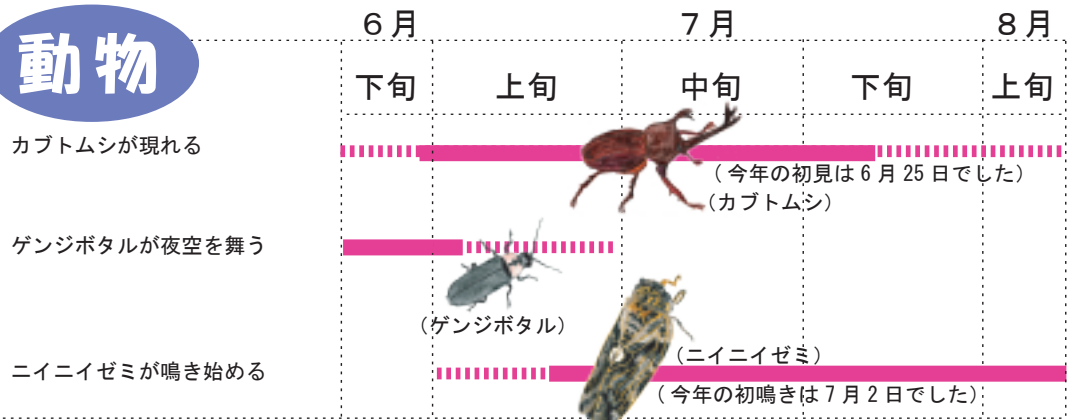
7月の生物ごよみ

植物



6月25日の夜、「夜の森のかんさつ会」の下見をしました。天気もよく、下見をするには絶好のひよりでした。センター駐車場ではいつもアブラコウモリがたくさん飛んでいるのですが、今年は何故かほとんど飛翔がなく、日が暮れて行きました。ゲンジボタルは19時50分ぐらいから光はじめ、策川の川面に映りとてもきれいでした。このゲンジボタルを見ることが出来るのはほんの2週間ほど。今年も出会うことが出来ました。すっかり暗くなった森の中に入るとカブトムシやスジクワガタ、シロスジカミキリなども観察することができました。そんな「夜の森のかんさつ会」も今回は残念ながら雨のため中止。また来年に期待したいと思います。

動物



【レンジャー：齋 正宏】

森の「おとしもの」



その14 「腰ぬけた」

センター前の芝生広場にあるマンサクの樹を観ていました。梅雨にしっかりと濡れた地衣類がとても鮮やかで「ああ～きれいだな～」とボーとみていたら（右写真一枚目）別のところにも同じような地衣類が（写真二枚目）。「あれ、でもなんか形が変だな、ウメノキゴケっぽくないよな～」と思って指でそっとつついたら“もにゅ”という感触とともにその地衣類が動き出しました！びっくりした！動かないはずのものが突然動くわけだから！予想外の経験に一瞬へなへなになった（笑）。

正体は「シラホシコヤガ」という蛾の幼虫でした（写真三枚目）。この見事なカモフラージュは地衣類を体にくっつけているためとのこと。ちなみに食べ物も地衣類、上手に周りの環境を利用して生きているのですね。

ところで、なんでこんな名前なの？

この成虫を見たことがなかったなので図鑑で成虫の姿を確認すると「白い」「星」の様な模様の「小」さな「夜蛾」でした。

ひとしきり観察した後に同じところに戻しました。でも、翌日以降探しても見つかりませんでした。地味だけどこかわい顔をしていたので写真、狙っていたのだけれど。

【レンジャー：木田秀幸】



写真一枚目 観察をしていたウメノキゴケ



二枚目 少し離れたところの変なコケ（実はシロホシコヤガ幼虫）



三枚目

指にのせると、うにように動いて逃げようとしていました。思ったより早いスピードです。戻すとウメノキゴケにまぎれ、まったく区別が付きません。

館長の 猫背の太白 sanpo

森の中を歩いていると、自然や生き物たちが作り出す造形美にハッと目を奪われる瞬間が度々訪れます。

「自然は直線を嫌う」という言葉を残したのは18世紀英国の建築家であり造園家ウィリアム・ケントです。また、日本人初のノーベル賞受賞者湯川秀樹は「自然は曲線を創り人間は直線を創る」との言葉を自身のエッセーに記しています。

なるほど、そういう視点で見ると自然の中にある様々な形は数多くの曲線の積み重なりで形成されているのが良く分かります。

特に虫たちが作り出す様々な形は、シンプルなものもあれば華美なもの、ユニークなものもあり驚きの連続です。それら全ての形には何かしらの役割であったり目的があるなど、まさに機能美という言葉がぴったりです。

こんな感じで森を見て歩くと、ますます歩みが遅くなり、立ち止まる回数が多くなりそうです。



茶目っ気のある虫も・・・

今回のトピック

森の中の建築家

木を見上げると頭上7メートルぐらいのところに球状の物体が・・・

その正体は建設中のコガタスズメバチの巣。とっくり状の壁の中には、六角形の集合体で構成されている育房室という部分があり、子どもを育てるエリアとなっています。

前段で紹介した「自然は直線を嫌う」という言葉とは矛盾するかのようには、見事なまでの曲線と直線のコラボレーションです。

実はこの六角形の集合体はハニカム構造と呼ばれ、縦からの圧力に強く、また断熱性に優れているため、この構造をヒントに建築材料や飛行機の壁や翼などに用いるなど、人間はさまざまな分野で活用しています。

誰に教えられるでもなく、このように合理的かつ堅牢な巣をつくる知恵は果たして生き物たちのDNAに刻まれているのでしょうか？



【館長：近藤晋也】



7月のイベント&お知らせ

◆こんなところに変形菌!? ～はじめての変形菌観察会

・森を歩きながら変形菌を探し、その魅力を知る観察会です。

7月20日(土) 10:00～12:00

【定員】15名

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい服装と靴、雨具、虫よけ薬、ルーペ(持っていたら)

【申込み】7月6日(土) 9:00から
電話で受付(先着順)

◆わくわく夜の森探検!!

・夜間に観察できる生物や自然現象を解説しながら園内を歩きます。

7月27日(土) 19:00～20:30

【定員】20名

【料金】無料

【持ち物】歩きやすい服装と靴、
懐中電灯、雨具(カッパ)

【申込み】7月9日(火) 9:00から
電話で受付(先着順)



◆館長と森を歩こう

・最終日曜午前のガイドウォークは観察の森の館長が森を案内します。

7月28日(日) 10:00～11:30

毎週
日曜は

「ガイドウォーク」の日!

テーマは、「梅雨の雑木林」

7日、14日、21日、28日

開催時間: 10:00～11:30
13:30～15:00

申し込み不要。センター前にお集まり下さい。

「森のちいさなアトリエ」は
「KATASUMIギャラリー」として

リニューアルオープン



ヤマツツジの丘からヨシの湿地への観察路は7月下旬頃開通予定です。

7月の休館日

1, 8, 16, 22, 29日



宮城交通バスの場合

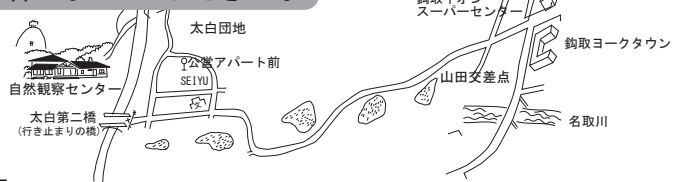
- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分



お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで!

2019年7月号(毎月1回5日発行)

発行:(公財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>